

2011.6.10
第1回アカデミック・リンク・セミナー

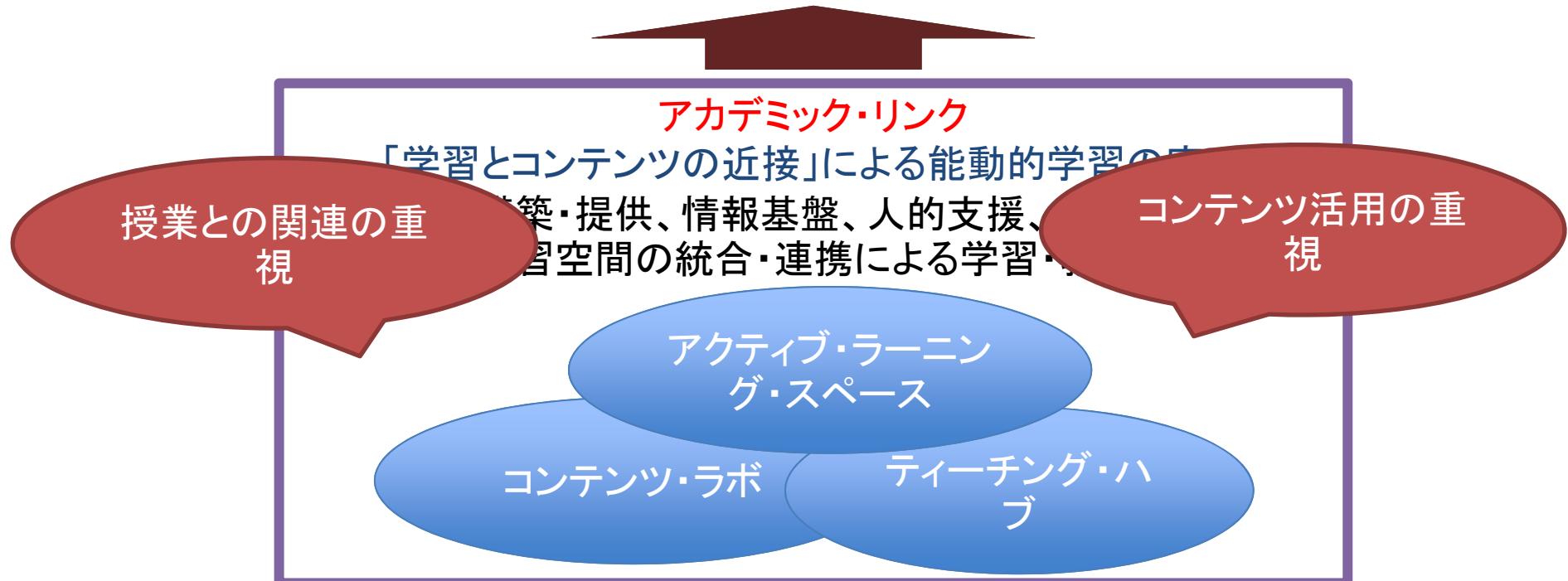
アカデミック・リンク, はじまる 新しい学習支援の形の実現にむけて

竹内 比呂也, 川本 一彦, 白川 優治
(千葉大学アカデミック・リンク・センター)

アカデミック・リンクによる千葉大学の教育改革

目的:「考える学生の創造」

「生涯学び続ける基礎的な能力」「知識活用能力」を持つ学生の育成



千葉大学中期目標・計画<教育方法改善への取組、アクティブ・ラーニングの重視>

大学に対する社会的要請

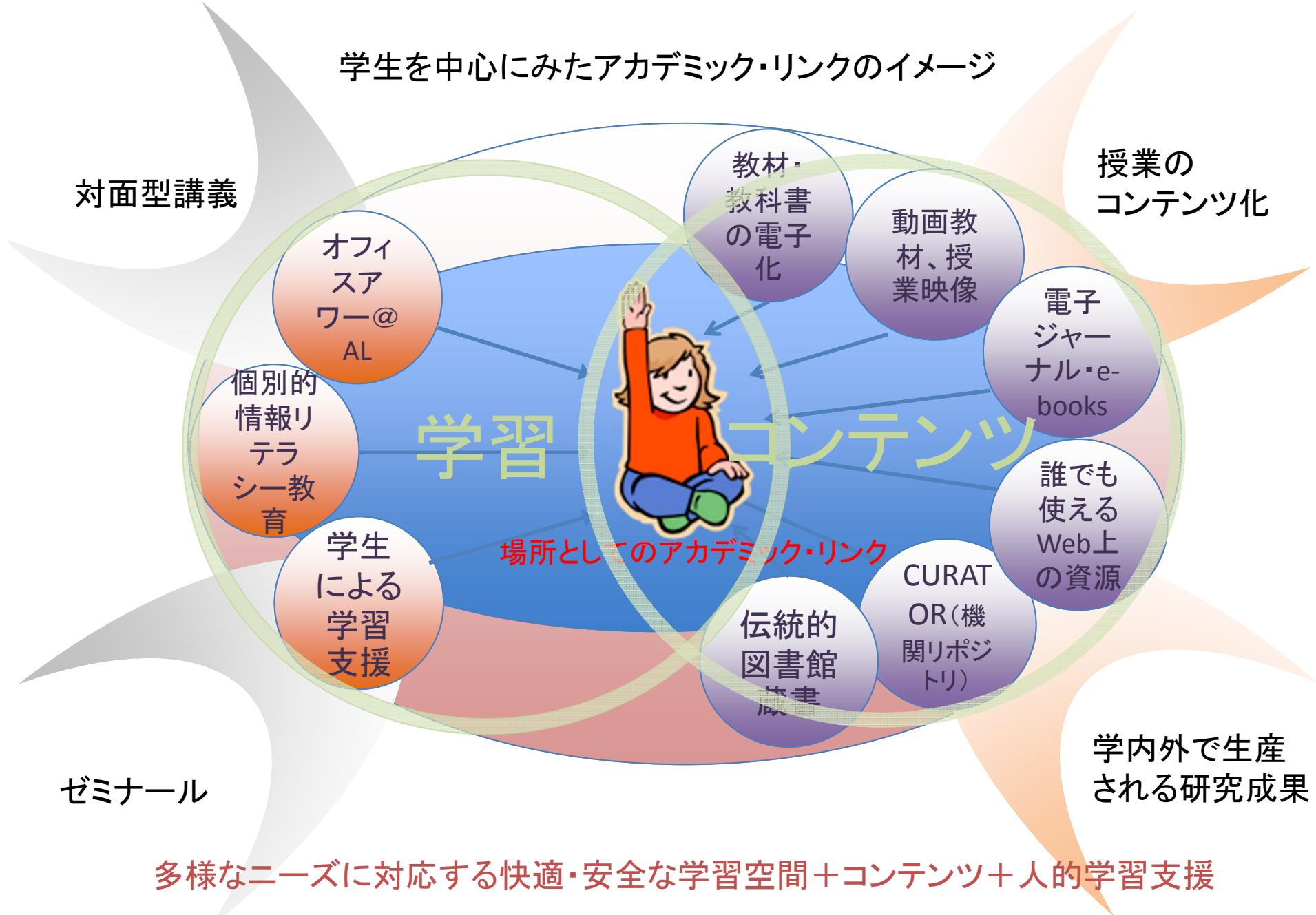
- 知識基盤社会、学習社会における市民の育成
- 高等教育のグローバル化の中での質の維持・向上
- 職業人としての基礎能力、創造的人材の育成

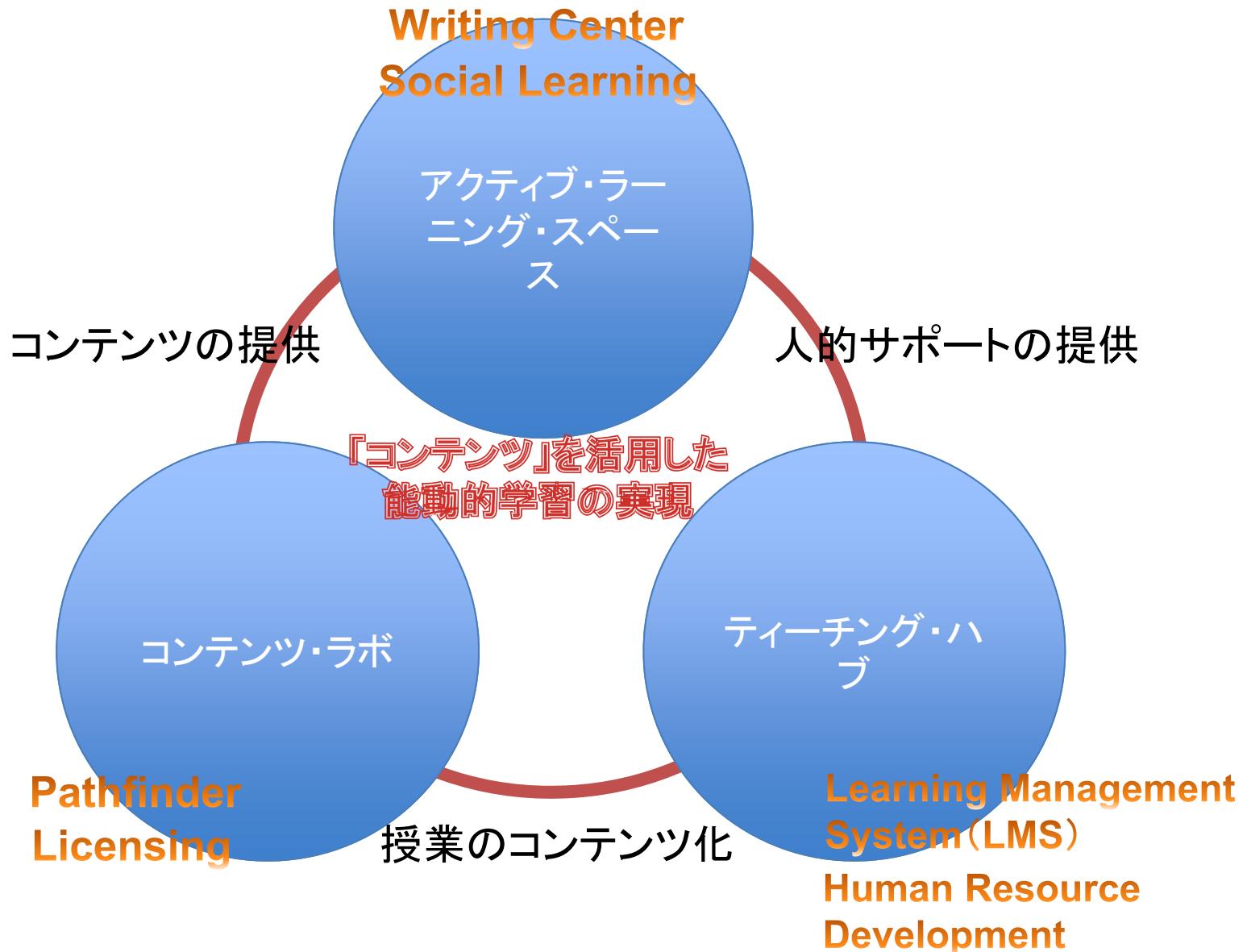
学生のニーズ

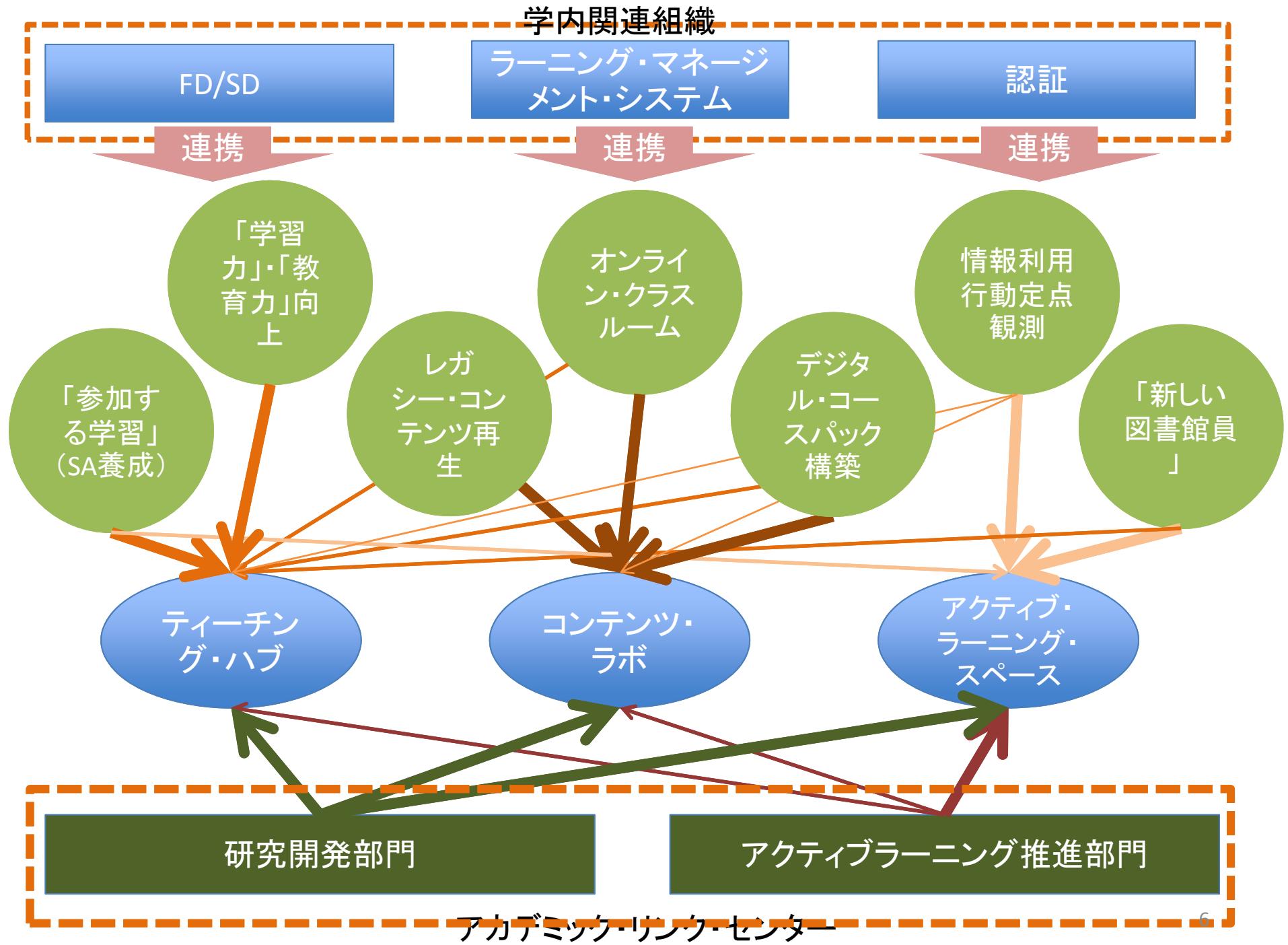
- 自由に使える学習スペース
- 文章作成力、ディスカッション能力、問題解決能力
- 英語によるコミュニケーション能力

「学士課程教育の構築に向けて」、千葉大学中期目標・計画とアカデミック・リンク

「学士課程教育の構築に向けて」(中教審答申)において大学に求められている取組	千葉大学中期目標・計画	アカデミック・リンクにおける実現
<p>「単位制度の実質化」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単位制度の実質化の観点から教育方法の点検・見直しを行い、質の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時間外に学生がなすべき課題を明示し、その活動に対してフィードバックを与えるような授業運営上の工夫等により、単位制度の実質化を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業そのもののコンテンツ化、教材の電子化および教科書、参考資料の電子化とオンライン提供による事前・事後学習の充実 ・学生の到達度に合わせた対話型学習支援の実現
<p>「教育方法の改善」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習の動機付けを図りつつ、双方向型の学習を展開するため講義そのものを魅力あるものにするとともに、体験学習を含む多様な教育方法を積極的に取り入れる。 ・TA等を積極的に活用して双方向型の学習や少人数指導を推進する。 ・教育研究上の目的等に即して情報通信技術を積極的に取り入れ、教育方法の改善を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ★学生が能動的に参加する授業の充実、情報化技術を応用した教育方法の開発と充実 ・アクティブラーニングの手法を取り入れた科目やICTを活用した教育方法の量的、質的改善、TAの充実などを通じて学習の双方向性を確保し、主体的な学びに裏打ちされた情報発信能力を涵養する。 ★教育環境を整備、充実による教育の効果の向上と快適な学習環境の実現 ・学習上必要な資料の体系的整備を行うとともに、教員と連携して授業に密着した情報提供機能を拡充、強化する。また、ICT環境を整備し、教育環境を充実させる。 ・自主的学習、情報交換及び課外活動の場として学生が利用できるスペースを充実させる。 ★学生の修学相談実施体制の整備 ・学習相談を担当するスチューデント・アシスタント(SA)として優れた学生を採用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のコンテンツ化の推進 ・教材開発の企画・立案 ・コースマネージメントシステムをベースとしたe-learningの先導的モデルコースの作成 ・アクティブラーニングを可能にする機器の整備された学習空間の提供 ・学生の到達度に合わせた対話型学習支援の実現 ・ライティングスキル、情報リテラシースキルの涵養 ・教員と職員の連携による「授業資料ナビゲータ」の推進 ・コンテンツ作成、配信のためのライセンス処理 ・電子図書、オンデマンド印刷を含む、多様な形式でのコンテンツの提供 ・個別学習／グループ学習に対応する情報通信機器が整備された学習空間の提供 ・SAの育成
<p>「教職員の職能開発」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々の教員の授業改善に向けた努力を支援する体制を整える。 ・教員と協働する専門性の高い職員の育成に向け、スタッフ・ディベロップメント(SD)の機会と場を充実する。 	<ul style="list-style-type: none"> ★カリキュラムや教育方法の改善、教員の職能開発を推進 ・SDを強化、充実し、専門的知識及び業務遂行能力の向上を図るとともに、業務の効率化・合理化を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業へのICT活用にかかるFD/SDの実施







デジタルコースパック構築プロジェクト



電子書籍



レガシー・コンテンツ再生 プロジェクト



オンライン・クラスルーム プロジェクト

- ・多様な形式のコンテンツの作成
- ・オールインワンでの提供(コンテンツ間の相互リンク)
- ・プラットホーム インディペンダントな環境
- ・授業毎のカスタマイズ



授業資料ナビをベースにしたコンテンツ作成

校長コア 前期 教養展開科目 文学部

2011年度前期の普通教育教養コア科目の一部の授業について作成しています。

—ア行—
■■■ [イメージの歴史1](#) / ■■■ [イメージの歴史2](#) 上村清雄先生他

—カ行—
■■■ 外国文化を考える1(ロシア) 烏山祐介先生
■■■ 活動型・地図とともに生きる 宮内裕裕先生
■■■ らくじ植物 松本みどり先生
■■■ 経済学2 / ■■■ 総合学1 古内博行先生
■■■ 総合学3 / ■■■ 総合学4 神原健一先生
■■■ 総合学6 / ■■■ 総合学7 安孫子誠男先生
■■■ 発達の分析と文化 原田幸博先生
■■■ 小さな自己の科学1 / ■■■ 小さな自己の科学2 藤部智加衣先生
■■■ 小さな科学の成立と発展1 / ■■■ 小さな科学の成立と発展2 大芦治
先生
■■■ 小さな健康と行動 花澤寿先生他

—サ行—
■■■ 細胞と動物細胞 生命 山本稔一先生
■■■ 理1 / ■■■ 数理1 越谷重夫先生
■■■ 住まいの文化を探る 丸山純先生他
■■■ 政治学1 / ■■■ 政治学2 高光佳絵先生
■■■ 生活防衛1 / ■■■ 生活防衛2 深町利容先生
■■■ 生物世界 小豆原道生先生
■■■ 世界の言語から見た日本語 中川裕先生

—タ行—
■■■ 哲学3 法野谷俊哉先生
■■■ 哲学6 山本新先生
■■■ 哲学7 望月由紀先生
■■■ 哲学8 山本新先生

—ナ行—
■■■ 日本文化を考える 久保勇先生

—ハ行—
■■■ 文化的多様性を考える 鈴木伸枝先生他

—マ行—
■■■ 民俗と暮らし1 和田健先生

—ヤ行—
■■■ 戸どもに生きる 谷本真理子先生他

—フ行—
■■■ ライフサイクルヒューマンケア 黒田久美子先生/野地有子先生
/今村恵美子先生/永野みどり先生
■■■ 臨床教育学の基礎 上杉賢士先生
■■■ 偏理1 / ■■■ 偏理2 法野谷俊哉先生
■■■ 偏理3 / ■■■ 偏理4 法野谷俊哉先生
■■■ 偏理5 吉永明弘先生
■■■ 偏理6 望月由紀先生
■■■ 歴史学1 / ■■■ 歴史学2 山田賢先生
■■■ 歴史学4 秋葉淳先生

—ワ行—

授業資料ナビゲータ(PathFinder)

教養展開科目 平成23年度(2011) 授業コード: G15051101

教育・学校と社会 月5 白川優治先生

キーワード: 教育と社会 教育社会学 教育問題 教育政策

一実際に利用した資料にはチェックをしましょう。

Web 授業のテーマに関するデータベースやサイトです。
 文部科学省 <http://www.mext.go.jp/>
→ 教育全般についての情報があります。白書、統計等へのリンクもあります。

読売新聞 教育ページ <http://www.yomiuri.co.jp/kyoiku/>
→ 以下にあげる新聞のページでは、教育問題の過去、また最新の情報を得られます。また、図書館HPのヨミダス(学内のみ)から、キーワードで検索してみましょう。1986年以降のデータを検索したり、全文が読めるものもあります。

朝日新聞 教育ページ <http://www.asahi.com/edu/>
→ この他にも、図書館HPの閲覧室(学内のみ)から、キーワードで検索してみましょう。1986年以降のデータを検索したり、全文が読めるものもあります。

毎日新聞 子育て・教育ページ <http://mainichi.jp/life/edu/>

産経新聞 教育ページ <http://sankei.jp.msn.com/life/newslist/education-edc-n1.htm>

図書 本には、テーマに関する内容がまとめられています。授業のテーマをつかむにはまずはここから始めましょう。
教育学に関する図書は、分類番号が「371」の書棚にありますので、直接その場所に行って、どのような本があるのか手にとってみましょう。
★のついている図書は、授業期間中(4月~8月)は本館1階 授業資料ナビコーナーにあります。

『教育の社会学: 「常識」の問い合わせ方、見直し方』(有斐閣アルマ; Specialized) 新版 芦谷剛彦[ほか]著 有斐閣 2010
→ 現代日本の教育問題の焦点、「いじめ」「幼児教育」「ジェンダーと教育」「学園社会」をとりあげています。実態の認識から、方法的特徴、理論・研究の動向まで学べます。
★【発注中】

『教育社会学』(有斐閣ブックス) 柴野昌山、菊池城司、竹内洋編 有斐閣 1992
★【発注中】

『教育学をつかむ』(Textbooks tsukamu) 木村元、小玉重夫、船橋一男著 有斐閣 2009
→ 教育学のエッセンスを解説した教育学入門です。
★【本館閲覧室3階 371/KY0】

『教育社会の設計』(UP選書) 矢野真和著 東京大学出版会 2001
→ 学校・会社・家庭の相互関係を実証的に解明しています。
★【本館閲覧室3階 371.3/KY0】

『教育学』(ヒューマニティーズ = Humanities) 広田照幸著 岩波書店 2009
→ 教育の思想や制度は、社会の大きな変動のなかで変容を遂げていますが、その中でいま教育学の何が組み換えられていくべきなのかを述べています。
★【本館閲覧室3階 371/KY0】

『教育論議の作法: 教育の日常を懐疑的に読み解く』広田照幸著 時事通信出版局 2011
★【発注中】

LMS(Learning Management System)との連携

The image shows two screenshots of Moodle interfaces. On the left is the Moodle 2.0 homepage with navigation links like 'Moodleとは', 'Moodleと連携', and 'Moodleと連携' under 'moodleドキュメント'. On the right is a course page titled 'Chiba Univ Moodle > TIU035001' with a sidebar for '川本一章' and a main content area showing a list of recent activities.

Moodle 2.0 Home Page:

- Top navigation: About, News, Support, Community, Development, Downloads, My courses, Search moodle.org
- Left sidebar:
 - 内 容
 - メインページ
 - 最近の更新
 - ヘルプ
 - moodleドキュメント
 - Moodleとは
 - 利用者
 - 管理者
 - 開発者
 - 統計
 - 表示
 - 検索
 - ツールバックス
 - リンク元
 - 関連ページの更新状況
 - 特別ページ
 - 印刷用(一覧)
 - この版への固定リンク
 - 他の言語
 - English
 - Español
 - 한국어
 - Русский
 - 中文

- Center content:

Moodleとは

Moodleはインターネット上で授業用のWebページを作るためのソフトです。教育学でいう社会的構築主義の考え方に基づいて作られており、日々改良が行われています。

Moodleはオープンソースのソフトで、GNU General Public Licenseに準じて自由に配布されます。簡単にいって、Moodleは著作権で保護されていますが、利用者にはさらに自由があります。Moodleは「利用・修正して下さいませんが、条件として、ソースコードを公開し、元のライセンスや著作権表示を記さないでください」というライセンスをMoodleから派生したソフトにも与えられています。詳しくはライセンスを読みたまご。私、無闇があれは著作権者に直接連絡をさせてください。

Moodleは「Moodle」の動作するどんなコンピュータでも動作し、たとえばデータベースをサポートします(特にMySQL)。

Moodleという名前は元々は Modular Object-Oriented Dynamic Learning Environment の略称で、また、軽調としての略称もまだよく使われる。思ついたことを書くといった意味で、その作風がしばしば済みや創造に結びつくのです。このことはMoodleが開発された経緯と、学生・教員が教えることの両方に反映できます。Moodleを使う人がMoodlerです。

さあ、一緒にmoodleしましよう!

参考リンク

- WikimediaのMoodleの項目
- Using Moodle (英文の入門書)
- Presentations (英文)
- Moodleの会議: Moodlemeet (Google)

カタログリ、コア / 管理者 / 教師

このページの最終更新は2009年7月1日 (水) 02:53に行われました。このページは232,503回アクセスされました。 内容を確認する

このページはMoodle Docsについて 先進事項

Chiba Univ Moodle Course Page:

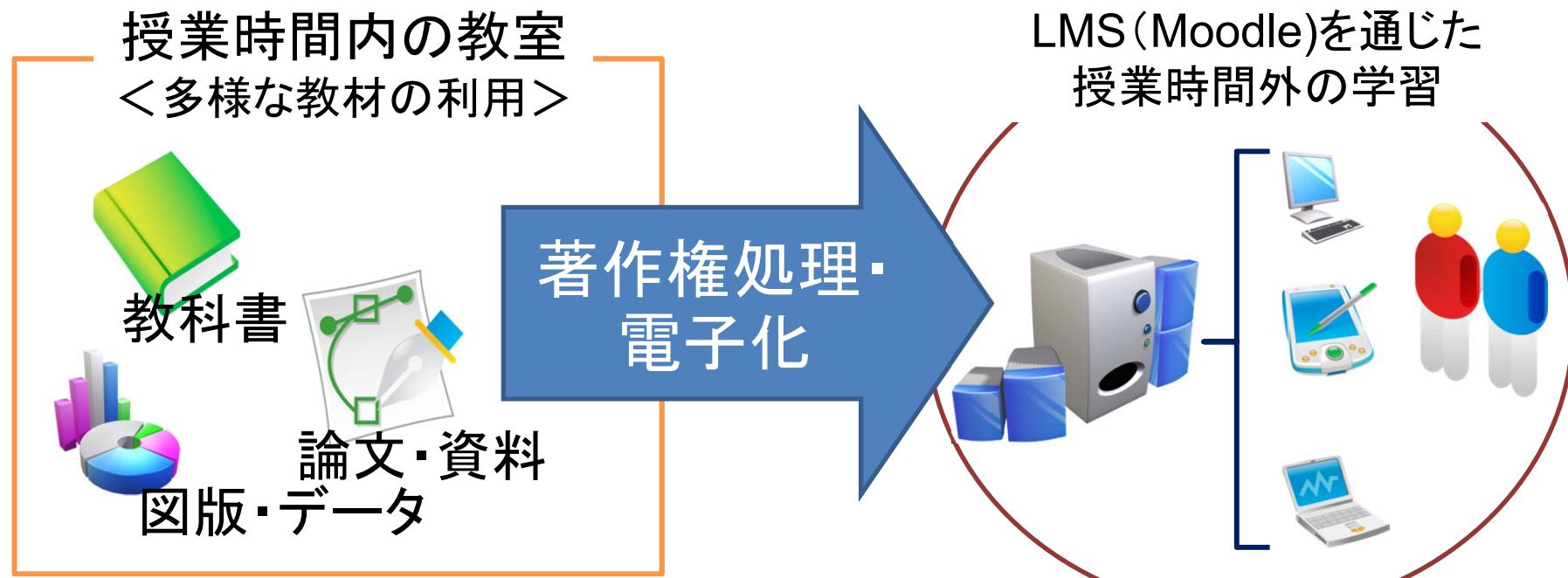
- Top right: あなたは 川本一章 としてログインしています。(ログアウト)
- Right sidebar:
 - ロールを切り替える ...
 - 検索モードの開始
 - 最新ニュース
 - 新しいトピックを追加する...
 - (新しい)ニュースはありません。
 - 直近イベント
 - 直近のイベントはありません。
 - カレンダーへ移動する...
 - 新しいイベント...
 - 活動
 - フォーラム
 - リソース
- Main content: A list of recent activities (トピックアウトラン) from April 11 to June 13, 2011.

日付	トピック	内容
4/11	ディジタル信号とアナログ信号	サイエンスチャンネル
4/11	講義資料	
4/18	信号の分解表現	講義資料
4/25	フーリエ級数からフーリエ変換へ	講義資料(講義あり)
5/2	標本化モデルと離散フーリエ変換	講義資料(講義あり)
5/10	標本化モデルと離散フーリエ変換(2)	
5/17	高速フーリエ変換。ラプラス変換	講義資料(講義あり)
5/23	持込みなし	
5/30	ラプラス変換	講義資料(講義あり)
6/6	z変換	講義資料
6/13	有線応答(FIR)システム: 移動平均システム	講義資料

デジタルコースパック構築プロジェクト

Digital Packaged Course Project

コンテンツの電子化を通じた学習環境の整備
授業時間外学習の充実のために、授業教材の権利処理



著作権法上の制約に、正当に「権利処理」することで対応

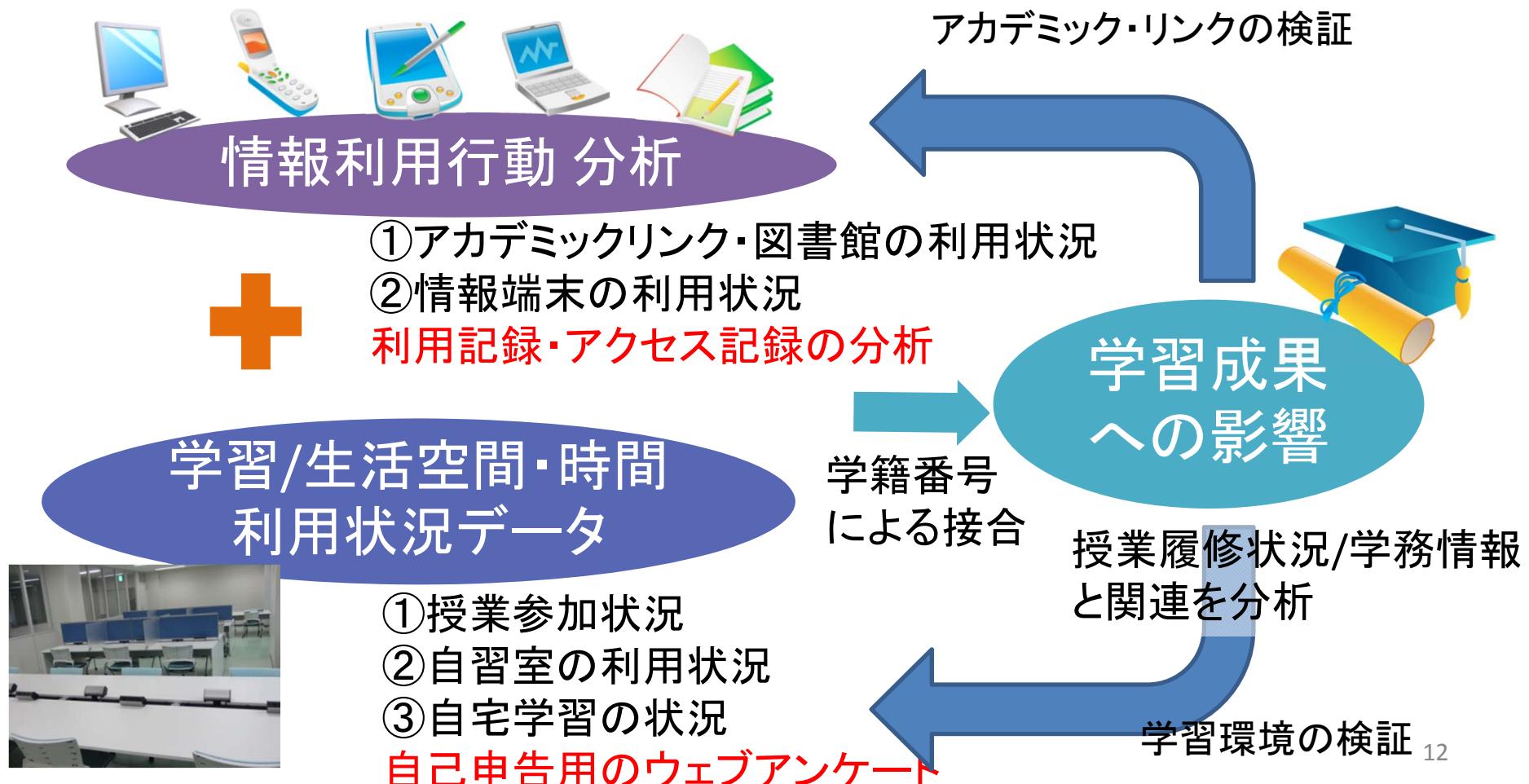
2011年度 普遍教育:教科書指定授業 36.35%(466/1282科目)

普遍教育の多くの授業では、さまざまな教材を利用して授業を実施

情報利用行動定点観測プロジェクト

Student Behavior Observatory

学生の学習行動と学習成果の関連を、情報利用行動と学習/生活空間の利用状況から継続的・横断的に検証する



「参加する学習」プロジェクト

Social Learning Project

アクティブラーニングスペースでのコンテンツを利用した「学生による学生のための学習相談」の実現とそのためのアカデミック・リンクによる体系的Student Assistant (SA)研修の構築



“Independent Learner”としての自律のために
アカデミック・リンクによる参加する契機の提供

「教育力」「学習力」向上プロジェクト

Faculty, Staff & Student Development Project

アカデミックリンク機能の理解と教育・学習スキルの向上

ICT・コンテンツを活用した教育・学習の向上



普遍教育センターとの連携／全学FD企画室・各部局のFDへの貢献

